

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-189304

(P2018-189304A)

(43) 公開日 平成30年11月29日(2018.11.29)

(51) Int.Cl.

F 2 4 C 15/12 (2006.01)

F 1

F 2 4 C 15/12

F

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 12 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願2017-92249 (P2017-92249)
 (22) 出願日 平成29年5月8日 (2017.5.8)

(71) 出願人 517158430
 中山 進
 埼玉県越谷市南越谷4-5-2
 (74) 代理人 110000501
 特許業務法人 銀座総合特許事務所
 (72) 発明者 中山 進
 埼玉県越谷市南越谷4-5-2

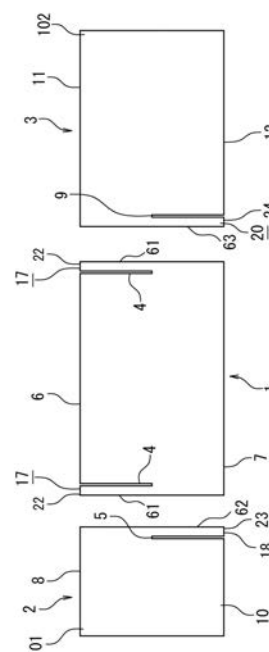
(54) 【発明の名称】 油ハネ防止パネル

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 調理作業時の調理台とコンロ台との往復を円滑に行うことができる油ハネ防止パネルを提供する。

【解決手段】 背面パネル1と、この背面パネル1の両側から同一方向に突出した第1側方パネル2及び第2側方パネル3とから成り、第1側方パネル2は、第2側方パネル3よりもその幅方向長さを短尺なものとするとともに、背面パネル1の両側には、第1側方パネル2および第2側方パネル3の底辺10、12から鉛直上方に伸びた係合凹溝5、9に係合可能な一対の係合受溝4を、背面パネル1の両側位置に上辺6から鉛直下方に備え、この一対の係合受溝4に第1側方パネル2および第2側方パネル3の係合凹溝5、9を各々係合させる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

背面パネルと、この背面パネルの両側から同一方向に突出した第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルとから成り、第 1 側方パネルは、第 2 側方パネルよりもその幅方向長さを短尺なものとするとともに、背面パネルの両側には、第 1 側方パネルおよび第 2 側方パネルの底辺から鉛直上方に伸びた係合凹溝に係合可能な一对の係合受溝を、背面パネルの両側位置に上辺から鉛直下方に備え、この一对の係合受溝に第 1 側方パネルおよび第 2 側方パネルの係合凹溝を各々係合させることにより、背面パネルの両側に、第 1 側方パネルおよび第 2 側方パネルをこの背面パネルの交差方向に着脱自在に組み付け可能としたことを特徴とする油ハネ防止パネル。

10

【請求項 2】

背面パネルは、一方背面パネルと他方背面パネルとから成り、この一方背面パネルと他方背面パネルとを部分的に重ねた状態で接続するとともに、この一方背面パネルと他方背面パネルとの重なり幅を調節することにより、背面パネルの幅方向長さを変更可能としたことを特徴とする請求項 1 の油ハネ防止パネル。

【請求項 3】

係合受溝を介して背面パネルの両側に形成された一对の係合上方突片の先端を、背面パネルの上辺よりも低い高さに形成したことを特徴とする請求項 1 または 2 の油ハネ防止パネル。

【請求項 4】

係合凹溝を介して第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルに形成された各係合下方突片の下端を、第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルの底辺よりも高い位置に形成したことを特徴とする請求項 1 の油ハネ防止パネル。

20

【請求項 5】

係合受溝を介して背面パネルの両側に形成された一对の係合上方突片の先端位置を、背面パネルの上辺の延長線上に配置したことを特徴とする請求項 1、または 2 の油ハネ防止パネル。

【請求項 6】

係合凹溝を介して第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルに形成された各係合下方突片の下端位置を、第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルの底辺の延長線上に配置したことを特徴とする請求項 1 の油ハネ防止パネル。

30

【請求項 7】

係合上方突片及び／又は係合下方突片の外側には、係合受溝及び係合凹溝の底部水平方向に、側方に張り出した膨出部を設けたことを特徴とする請求項 3、4、5、または 6 の油ハネ防止パネル。

【請求項 8】

係合上方突片及び／又は係合下方突片は、補強プレートを設けたことを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6、または 7 の油ハネ防止パネル。

【請求項 9】

第 1 側方パネル及び／または第 2 側方パネルには、背面パネルの組み付け位置とは反対側に位置する上辺角部を切欠くことにより、直線又は曲線状の斜辺を設けたことを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、または 6 の油ハネ防止パネル。

40

【請求項 10】

係合凹溝及び係合受溝は、背面パネルと第 1 側方パネル及び第 2 側方パネルとの組み付け時に、係合凹溝と背面パネル、及び、係合受溝と第 1、第 2 側方パネルとの間に隙間が形成される溝幅としたことを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6、7、または 9 の油ハネ防止パネル。

【請求項 11】

背面パネル、第 1 側方パネル、及び第 2 側方パネルは、不燃化粧板にて形成したことを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6、7、9、または 10 の油ハネ防止パネル。

50

【請求項 12】

補強プレートは、不燃化粧板にて形成したことを特徴とする請求項 8 の油ハネ防止パネル。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、キッチンのコンロ周りに載置して調理中に生じる周囲への油跳ねを防止する油ハネ防止パネルに関するものである。

【背景技術】

【0002】

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2003-120943 号公報

従来

より、加熱調理中にフライパンなどからキッチンのガスや電気コンロの周囲への油跳ねや汁の飛散等を防止するため、コンロの周囲をコ字型あるいは L 字型に囲んで使用する油ハネ防止パネルが知られている。そしてこのような油ハネ防止パネルは、背板とこの背板の両側に連なった分離不能な一对の側板から成る三つ折タイプが主流である。

【0004】

このような三つ折タイプの油ハネ防止パネルとして、アルミニウム箔製のものが一般的に知られているが、厚みが薄いため少し力が加わっただけでもいびつに変形し、元の状態に復元しづらいものであった。また、このような油ハネ防止パネルは表面全体に多くの凹凸が設けられているため洗浄が困難であった。従って、使用によりある程度パネルが汚れた場合には、新たに買い換えることが前提となっており経済的でない。また、特許文献 1 に示す如く、平板状の背板に左右の側板を、ヒンジなどの接続部を介してパネル同士を分離可能にしたり回転自在に接続したものの存在する。

20

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記従来の油ハネ防止パネルは背板と側板が分離できず背板と一对の側板とが連なった大きなものであるから、表面に付着した汚れを除去するための作業が煩雑なものとなっていた。また、特許文献 1 に示す如く背板と側板とをヒンジ部で接続した油ハネ防止パネルは、加熱調理時に鍋やフライパンなどとの衝突で生じたパネルやヒンジ部の変形、又はヒンジ部に付着した油が固まってヒンジ部の動きが悪くなり側板が回転困難となるおそれがあった。また、洗浄時に背板と側板とを分離して洗浄する場合に、油汚れ等で固まったり変形したヒンジ部を分解する作業や、ヒンジの構造上一人で組み立てることは困難であるため、再びヒンジ部を組み立てる作業に手間がかかるものとなっていた。

30

【0006】

また一般的な家庭用コンロの場合、コンロの左右どちらか一方に調理台が接続されているため、従来の油ハネ防止パネルをコンロ周りに配置した場合に、調理台とコンロ台とを往復しながら調理作業を行う際に、側板が邪魔になって円滑な調理作業に支障をきたす場合が生じる。

40

【0007】

そこで、本発明は上記の如き課題を解決しようとするものであって、容易に組み立て分解ができる簡易な構成として、油跳ねや飛散した汁のこびりつき等の汚れの除去作業を容易なものとするとともに、調理作業時の調理台とコンロ台との往復を円滑に行うことができる油ハネ防止パネルを得ようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は上述の如き課題を解決するため、背面パネルと、この背面パネルの両側から同

50

一方向に突出した第1側方パネル及び第2側方パネルとから成り、第1側方パネルは、第2側方パネルよりもその幅方向長さを短尺なものとするとともに、背面パネルの両側には、第1側方パネルおよび第2側方パネルの底辺から鉛直上方に伸びた係合凹溝に係合可能な一对の係合受溝を、背面パネルの両側位置に上辺から鉛直下方に備え、この一对の係合受溝に第1側方パネルおよび第2側方パネルの係合凹溝を各々係合させることにより、背面パネルの両側に、第1側方パネルおよび第2側方パネルをこの背面パネルの交差方向に着脱自在に組み付け可能としたものである。

【0009】

本発明は上記の如く、一对の係合受溝に第1側方パネルおよび第2側方パネルの係合凹溝を各々係合させることにより、背面パネルの両側に第1側方パネルおよび第2側方パネルを交差方向に着脱自在に組み付け可能としたものであるから、他に特別な接続部材を必要とすることなく、平板状の各パネルに溝を設けた簡易な構成の部材を用いて容易に組み付けることができるものである。また、組み付け状態から各パネルを容易に離脱分離することができるため、キッチンのシンク等でも丸洗いが可能な大きさに分離可能となり、分離した各パネルの表面に付着した油跳ねや飛散した汁等の汚れの除去作業を容易に行うことができる。

【0010】

更に、特許文献1に示す如く背板と側板とをヒンジ部で接続した油ハネ防止パネルは、コンロ台側である内側に接続具が露出していることから、コンロにかけたフライパン等から飛散した油等がこの接続具に付着して固化し、パネル同士をスムーズに着脱させることが困難となる場合があるが、本発明では接続具を設けておらず溝に係合するのみで各パネルの接続を行うものであるから、飛散した油等が固着するなどの事態が生じにくく、パネル同士の着脱を円滑に行うことができる。

【0011】

また、第1側方パネルを第2側方パネルよりもその幅方向長さを短尺なものとしている。これは、一般的な家庭用コンロの場合、コンロの左右どちらか一方に調理台が接続されているため、調理台側に第1側方パネルが位置するよう組み付けることによって、調理台とコンロ台との間で第1側方パネルで仕切られないスペースを作ることができる。そのため、調理台とコンロ台との連携作業を円滑に行うことが可能となる。また、将来のキッチンリフォームや引越しなどによって調理台とコンロ台との位置が入れ替わった場合でも、第1側方パネルと第2側方パネルの背面パネルへの組み付け位置を逆にするのみで容易に対応可能であるため、買い替えの必要がなく経済的である。

【0012】

また背面パネルは、一方背面パネルと他方背面パネルとを部分的に重ねた状態で接続して成り、この一方背面パネルと他方背面パネルとの重なり幅の長さを調節することにより、背面パネルの幅方向長さを調節可能としたものであっても良い。このように背面パネルを形成することにより、一方背面パネルと他方背面パネルとの重なり幅を調節することによって、様々な幅のコンロに対応することができる汎用性のある商品とすることができる。

【0013】

また、係合受溝を介して背面パネルの両側に形成された一对の係合上方突片の先端を、背面パネルの上辺よりも低い高さに形成したものであっても良い。係合上方突片はその細長い構造上、外力が加わった場合に係合受溝の底部周辺に水平方向に応力が生じてひびが入るなどし、係合上方突片が折れて曲がったり破損したりするおそれがある。しかし上記の如く形成することにより、係合上方突片の先端を背面パネルの上辺の延長線上に設けた場合よりも、この係合上方突片が外力により折れ曲がったり破損したりする事態を防ぐことができる。

【0014】

また上記の如く構成することにより、第1側方パネルと第2側方パネルとを背面パネルに組み付ける際に、第1側方パネルや第2側方パネルの底辺を背面パネルの上辺位置まで

10

20

30

40

50

持ち上げることなく、背面パネルの上辺位置よりも低い位置から第1側方パネルや第2側方パネルの係合凹溝を背面パネルの係合受溝に係合させることができる。そのため、レンジフードや吊戸等でコンロ上の高さが低い場合でも、パネル同士の組み付け作業を容易にし、組み付け作業の労力を軽減することができる。また、第1側方パネルと第2側方パネルを背面パネルに組み付ける際に、背面パネルの係合上方突片先端よりも上方に露出した両側縁に沿って第1側方パネル又は第2側方パネルをスライドさせながら係合受溝に係合凹溝に係合させることができる。そのため、第1側方パネル及び第2側方パネルの背面パネルへの組み付け作業を円滑に行うことができる。

【0015】

また、係合凹溝を介して第1側方パネル及び第2側方パネルに形成された各係合下方突片の下端を、第1側方パネル及び第2側方パネルの底辺よりも高い位置に形成したものであっても良い。係合下方突片はその細長い構造上、外力が加わった場合に係合凹溝の底部周辺に水平方向に応力が生じてひびが入るなどし、係合下方突片が折れて曲がったり破損したりするおそれがある。

【0016】

しかし上記の如く形成することにより、係合下方突片の下端高さを第1側方パネル及び第2側方パネルの底辺の延長線上に配置した場合よりも、この係合下方突片が外力により折れ曲がったり破損したりする事態を防ぐことができる。

【0017】

また上記の如く構成することにより、背面パネルに第1側方パネルと第2側方パネルとを組み付ける際に、第1側方パネルや第2側方パネルの底辺を背面パネルの上辺まで持ち上げることなく、背面パネルの上辺位置よりも低い位置から第1側方パネルや第2側方パネルの係合凹溝を背面パネルの係合受溝に係合させることができる。そのため、組み付け作業の労力を軽減することができる。

【0018】

更に、上記の如く各係合下方突片の下端を第1側方パネル及び第2側方パネルの底辺よりも高い位置に形成するとともに、背面パネルに形成した一对の係合上方突片の先端を、背面パネルの上辺よりも低い位置に形成することにより、背面パネルに第1側方パネル及び第2側方パネルを組み付ける際に、第1側方パネルと第2側方パネルを背面パネルに対して持ち上げる高さを上記よりも更に低くすることができる。従って、背面パネルへの第1側方パネル及び第2側方パネルの組み付け作業の労力をより一層軽減することができる。

【0019】

また、係合上方突片及び係合下方突片の外側には、係合受溝及び係合凹溝の底部水平方向に、側方に張り出した膨出部を設けたものであっても良い。このように膨出部を設けることによって、応力が生じて破損しやすい係合上方突片や係合下方突片の係合受溝や係合凹溝の底部水平方向の形成幅が幅広となるため、この部分での破損を防止することができる。また、背面パネルに第1側方パネル及び第2側方パネルを組み付ける際に、第1側方パネルと第2側方パネルの係合下方突片を膨出部から背面パネルの係合受溝に容易に差し入れることができるため、この係合受溝と係合下方突片の係合凹溝との係合をスムーズに行うことができる。

【0020】

また、係合上方突片及び／又は係合下方突片は、補強プレートを設けたものであっても良い。この補強プレートにより、係合上方突片や係合下方突片の外側の係合受溝や係合凹溝の底部水平方向に対応する部分を更に破損しにくいものとすることができる。

【0021】

また、第1側方パネル及び／または第2側方パネルには、背面パネルの組み付け位置とは反対側に位置する上辺角部を切欠くことにより、直線又は曲線状の斜辺を設けたものであっても良い。調理器具などの衝突が生じやすい上辺角部を切り欠いた形状とすることにより、このような衝突が回避されて調理台とコンロ台との連携作業を円滑に行うことが可

10

20

30

40

50

能となるとともに、コンロ台側と調理台側との間で上辺角部で仕切られない連続した空間を生じさせることができるため、調理台で作業をしながらコンロ台の状態を容易に確認することができる。

【0022】

また係合凹溝及び係合受溝は、背面パネルと第1側方パネル及び第2側方パネルとの組み付け時に、係合凹溝と背面パネル、及び、係合受溝と第1、第2側方パネルとの間に隙間が形成される溝幅としたものであっても良い。このように隙間を設けることにより、背面パネルに対して第1側方パネル及び第2側方パネルが係合凹溝と係合受溝との係合部を中心として回動可能となる。そのため背面パネルに対して第1側方パネル及び第2側方パネルの開閉が自在となる事から、コンロのトッププレートからはみ出るほど大きなフライパン等を使用した場合でも、第1側方パネル及び第2側方パネルの開き具合を調節することでフライパン等が第1及び第2側方パネルに接触することなく安全に使用することができる。

10

【0023】

また、背面パネル、第1側方パネル、及び第2側方パネルは、不燃化粧板にて形成したものであっても良い。このように不燃化粧板を使用することにより、表面に飛散して付着した油や汁等の汚れを容易に落とすことができる。また、何回洗浄しても変形したりさび付いたりすることなく長期間使用することができるため、買い替える必要がなく経済的である。また従来一般的に使用されていた金属性のものと比較して、熱伝導率が低いため調理中でも熱が伝わりにくく、やけど等の心配がない。また様々な色や模様のもを選択することができるため、背面パネル、第1、第2側方パネル、及びキッチンコンロのバックパネルに同色・同柄の不燃化粧板を使用すれば、統一性のあるキッチンデザインを実現させることができる。尚、本発明の不燃化粧板としては、例えばメラミン不燃化粧板やホーロー及び不燃メラミン化粧板などが挙げられる。また、油ハネ防止パネルを同一素材の不燃化粧板にて形成することが可能であり、他の素材は用いる必要がないため製造が容易となる。また、不燃化粧板にて形成することによって、従来のアルミニウム箔製で外力が加わると容易に変形する強度が弱いものと比較して、適度な強度を保った状態で直立させることができるため安定した設置状態を保つことができる。

20

【発明の効果】

【0024】

本発明は上記の如く、一对の係合受溝に第1側方パネルおよび第2側方パネルの係合凹溝を各々係合させることにより、背面パネルの両側に第1側方パネルおよび第2側方パネルを着脱自在に組み付け可能としたものであって、平板状の各パネルに溝を設けた簡易な構成の部材を組み付けることにより容易に組み付けることができるものである。そのため、第1側方パネル及び第2側方パネルの入れ替えが自在となり、入れ替え作業を一人で容易に行うことができる。

30

【0025】

また、各パネルは平板状であって組み付け状態から適当な大きさに容易に分離することができるため、表面に付着した油跳ねや飛散した汁等の汚れの除去作業をキッチンのシンク等の比較的狭い場所でも手軽に行うことができる。また、第1側方パネルの幅方向長さを、第2側方パネルよりも短尺なものとしている。これは、一般的な家庭用コンロの場合、コンロの左右どちらか一方に調理台が接続されているため、調理台側に第1側方パネルが位置するよう組み付けることによって、調理台とコンロ台との間において第1側方パネルで仕切られないスペースを作ることができる。

40

【0026】

そのため、調理者は調理台とコンロ台との間を往復しながら調理作業を円滑に行うことができる。また、将来キッチンリフォームや引越などによって調理台とコンロ台の位置が入れ替わった場合でも、第1側方パネルと第2側方パネルの背面パネルへの組み付け位置を逆にするのみで容易に対応できるため、長年にわたり新たに買いなおす必要がなく経済的である。

50

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図1】本発明の実施例1を示す背面パネル、第1側方パネル、第2側方パネルの平面図。

【図2】実施例1の使用状態を示す斜視図。

【図3】実施例1の組み付け前を示す斜視図。

【図4】実施例1の組み付け状態を示す斜視図。

【図5】(a)実施例2において背面パネルの重なり幅の狭い状態を示す平面図。

(b)実施例2において背面パネルの重なり幅の広い状態を示す平面図。

【図6】実施例2の一方背面パネルと他方背面パネルとを示す平面図。

【図7】実施例3を示す平面図。

【図8】実施例4を示す平面図。

【図9】実施例5を示す平面図。

【図10】実施例6の第1側方パネルを示す平面図。

【図11】実施例6の第2側方パネルを示す平面図。

【図12】実施例6の使用状態を示す斜視図。

【実施例1】

【0028】

本発明における実施例1を説明すると、本実施例の油ハネ防止パネルは図1に示す長方形で平板状の背面パネル(1)と、この背面パネル(1)の両側から同一方向に突出した同じく長方形で平板状の第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)とから成るものである。そして第1側方パネル(2)は、第2側方パネル(3)よりもその幅方向長さを短尺なものとしている。また、背面パネル(1)と第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の形成高さを全て同じとしている。

【0029】

また、背面パネル(1)の両側には、この背面パネル(1)の上辺(6)から鉛直下方に伸びた一对の係合受溝(4)を設けている。そして第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)には、この第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)から鉛直上方に細長く伸びた係合凹溝(5)(9)を、それぞれ一側に各1箇所ずつ設けている。そして、係合受溝(4)の長さを背面パネル(1)の形成高さの約半分の長さとするとともに、係合凹溝(5)(9)の長さを第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の形成高さの約半分の長さとしている。

【0030】

係合受溝(4)及び係合凹溝(5)(9)の長さを上記長さとすることにより、背面パネル(1)に第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)をそれぞれ組み付けた際に、背面パネル(1)の底辺(7)と第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)が同一平面上に位置するものとなる。これにより、図2に示す如くコンロ台(16)が調理台(15)と同一高さになるビルトインコンロ(13)に適した仕様とすることができる。

【0031】

尚、本実施例では上記の如く、ビルトインコンロ(13)に対応するため係合受溝(4)と係合凹溝(5)(9)との形成長さを背面パネル(1)の底辺(7)と第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)が全て同一平面上に揃うよう調整しているが、第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)よりも背面パネル(1)の底辺(7)が上方に位置するよう係合受溝(4)又は係合凹溝(5)(9)の長さを調節することにより、コンロ台(16)の上に設置する据え置き型コンロ(図示せず。)に対応させて、第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)をコンロ台(16)に載置するとともに、背面パネル(1)の底辺(7)を据え置き型コンロ上面(14)又はコンロ台(16)に載置可能とする仕様とすることもできる。

【0032】

また上記の如く背面パネル(1)の両側に係合受溝(4)を形成することにより、この係合受溝(4)を介して背面パネル(1)の両側に一对の係合上方突片(17)が形成されるものとなる。

また第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)にそれぞれ係合凹溝(5)(9)を形成することにより、この係合凹溝(5)(9)を介して第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の一侧に係合下方突片(18)(20)が形成されるものとなる。

【0033】

また上記係合受溝(4)の溝幅を第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の厚さよりも幅広に形成するとともに、上記係合凹溝(5)(9)の溝幅を背面パネル(1)の厚さよりも幅広に形成し、各係合凹溝(5)(9)が上記背面パネル(1)の係合受溝(4)にそれぞれ係合可能となるよう形成している。またこの係合凹溝(5)(9)及び係合受溝(4)は、背面パネル(1)と第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)との組み付け時に、係合凹溝(5)(9)と背面パネル(1)、及び、係合受溝(4)と第1、第2側方パネル(2)(3)との間にそれぞれ隙間が形成されるよう溝幅を調節している。

10

【0034】

また、図1に示す如く第1側方パネル(2)は、第2側方パネル(3)よりもその幅方向長さを短尺なものとしている。これは、一般的な家庭用コンロの場合、コンロの左右どちらか一方に調理台(15)が接続されているため、この調理台(15)側に第1側方パネル(2)が位置するよう組み付けることによって、図2に示す如く調理台(15)とコンロとの間に第1側方パネル(2)で仕切られないスペース(21)を作ることができる。

【0035】

そのため、調理台(15)とコンロとの連携作業を円滑に行うことが可能となる。また、将来キッチンリフォームや引越しなどによって調理台(15)とコンロ台(16)との位置が入れ替わった場合でも、第1側方パネル(2)と第2側方パネル(3)の背面パネル(1)への組み付け位置を逆にするのみで容易に対応可能であるため、買い替えの必要がなく経済的である。尚、本願発明の上辺、及び底辺は、背面パネル(1)、第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)を組み付けてコンロ周りに設置した際の上下方向を基準とするものであって、コンロ周りに設置した際に上方に位置する辺を上辺、底部に位置する辺を底辺としている。

20

【0036】

また、本実施例及び下記実施例では、背面パネル(1)、第1側方パネル(2)、及び第2側方パネル(3)を不燃化粧板で表面につやのあるメラミン不燃化粧板にて形成している。このように表面につやのある不燃化粧板を使用することにより、表面に飛散して付着した油や汁等の汚れを容易に落とすことができる。また、何回洗浄しても変形したりさび付いたりすることなく長期間使用することができるため経済的である。

30

【0037】

また従来一般的に使用されていた金属性のものと比較して、熱伝導率が低いため加熱調理中でも熱が伝わりにくく、やけど等の心配がない。また様々な色や模様を選択することができるため、背面パネル、第1、第2側方パネル、及びキッチンコンロ台のバックパネルに同色・同柄の不燃化粧板を使用すれば、統一性のあるキッチンデザインを実現させることができる。尚、本実施例では不燃化粧板としては、メラミン不燃化粧板を使用しているが、他の異なる実施例ではこれに限らずホーローや不燃メラミン化粧板等他の不燃化粧板を使用することも可能である。

【0038】

上記の如く形成した背面パネル(1)、第1側方パネル(2)、及び第2側方パネル(3)の組み付け方法について以下に説明する。まず、背面パネル(1)の係合受溝(4)側を上辺(6)として、この背面パネル(1)を鉛直方向に立てた状態で保持する。そして、図3に示す如く第1側方パネル(2)を鉛直方向に保持した状態で、上記の如く鉛直方向に立てた状態の背面パネル(1)の上方に背面パネル(1)の直交方向に持ち上げ、図3の矢印に示す如くこの背面パネル(1)の一方の係合受溝(4)に係合凹溝(5)に係合させる。これにより、第1側方パネル(2)が背面パネル(1)に直交方向に組み付け配置されるものとなる。そのため、背面パネル(1)と第1側方パネル(2)とがL字型に組みつけられるものとなることから、両者を手で支持することなくこの組み付け状態で自立させることができる。

40

【0039】

50

次に、第 2 側方パネル(3)を鉛直方向に保持した状態で、上記の如く鉛直方向に立てた状態の背面パネル(1)の上方に背面パネル(1)の直交方向に持ち上げ、図 3 の矢印に示す如くこの背面パネル(1)の他方の係合受溝(4)に係合凹溝(9)に係合させる。これにより、図 2、4 に示す如く本実施例の油ハネ防止パネルの組み立てが完了する。

【0040】

このように、背面パネル(1)の両側に一对の係合受溝(4)を上辺(6)から鉛直下方に設けることにより、背面パネル(1)を設置面に立てて支持した状態で第 1 側方パネル(2)及び第 2 側方パネル(3)を片方ずつ容易に組み付けることができるため、一人で組み付け作業を容易に行うことができる。尚、上記では先に第 1 側方パネル(2)を背面パネル(1)に組み付けているが、第 2 側方パネル(3)を先に組み付けても良い。

10

【0041】

そして上記の如く組み付けたものを分離する場合について説明すると、まず第 1 側方パネル(2)を鉛直上方に持ち上げることにより背面パネル(1)から取り外すことができる。この時点において、背面パネル(1)と第 2 側方パネル(3)とが L 字型に係合していることから、手で支持しなくても両者が転倒することなく安定した状態で自立させることができる。

【0042】

更に、背面パネル(1)を支持した状態で、第 2 側方パネル(3)を鉛直上方に持ち上げることにより、この第 2 側方パネル(3)と背面パネル(1)とを分離することができ、これにより全ての分離作業が完了する。尚、上記では先に第 1 側方パネル(2)を背面パネル(1)から分離しているが、第 2 側方パネル(3)を先に分離しても良い。上記の如く、分離作業を一人で容易に行うことができることから、洗浄時に上記の如く適当な大きさに分離することにより、背面パネル(1)、第 1 側方パネル(2)、及び第 2 側方パネル(3)の表面に付着した油跳ねや飛散した汁等の汚れの除去作業を手軽且つ容易にシンク等の狭い場所にて行うことが可能となる。

20

【0043】

また、係合凹溝(5)(9)及び係合受溝(4)は、背面パネル(1)と第 1 側方パネル(2)及び第 2 側方パネル(3)との組み付け時に、係合凹溝(5)(9)と背面パネル(1)、及び、係合受溝(4)と第 1、第 2 側方パネル(2)(3)との間にそれぞれ隙間が形成されるよう溝幅を調節している。そのため、上記の如く組み付けることによって係合凹溝(5)(9)と係合受溝(4)との間に隙間が生じるものとなることから、背面パネル(1)に対して第 1 側方パネル(2)及び第 2 側方パネル(3)を、係合凹溝(5)(9)と係合受溝(4)との係合部を中心として回動可能とすることができる。

30

【0044】

従って、コンロからはみ出るような大きな鍋やフライパンをコンロに置いた場合でも、背面パネル(1)に対して第 1 側方パネル(2)及び第 2 側方パネル(3)をそれぞれ拡開することにより、第 1 側方パネル(2)や第 2 側方パネル(3)に接触することなく鍋やフライパンを安定した状態でコンロに置くことができる。

【実施例 2】

【0045】

上記実施例 1 では背面パネル(1)を 1 枚の平板にて形成しているが、本実施例 2 では、背面パネル(27)を 2 枚の平板にて形成している。本実施例について説明すると、本実施例の背面パネル(27)は図 5 (a)(b)に示す如く、一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)とを部分的に重ねた状態で接続して成るものである。

40

【0046】

そして図 6 に示す如く、この一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)には、それぞれ同一の高さ位置に同一の大きさの長穴(28)を複数個形成するとともに、上辺(29)(34)に凹部(30)を複数個形成している。そしてこの一方背面パネル(32)の一侧と他方背面パネル(33)の一侧を、上記いずれかの長穴(28)及び凹部(30)が重なるように重ね合わせるとともに、この重ね合わさった長穴(28)および凹部(30)に図 5 に示す如く各々留め具(31)を挿通固定することにより、一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)とを分離困難に接続固定し

50

ている。

【0047】

上記の如く、背面パネル(27)を一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)とを部分的に重ねて形成することにより、この重なり幅を調節することによって背面パネル(27)の全幅方向長さを調節することができる。例えば、図5(b)に示す如く一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)との重なり幅を図5(a)よりも広くすることによって、背面パネル(27)の全幅方向を図5(a)よりも狭くすることができる。これにより、一方背面パネル(32)と他方背面パネル(33)との重なり幅を調節することによって、様々な幅のコントロに対応することが可能となり、汎用性のある油ハネ防止パネルを得ることができる。

【実施例3】

【0048】

また上記実施例1では、背面パネル(1)の両側に形成された一对の係合上方突片(17)の先端(22)を背面パネル(1)の上辺(6)の延長線上に形成するとともに、第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)に形成された係合下方突片(18)(20)の下端(23)(24)を、第1側方パネル(2)及び第2側方パネル(3)の底辺(10)(12)の延長線上に形成しているが、本実施例では図7に示す如く、背面パネル(35)の一对の係合上方突片(36)の先端(37)高さを、背面パネル(35)の上辺(38)よりも低い高さに形成するとともに、第1側方パネル(40)及び第2側方パネル(41)の係合下方突片(42)(43)の下端(44)(45)位置を、第1側方パネル(40)及び第2側方パネル(41)の底辺(46)(47)よりも高い位置に形成している。

【0049】

上記実施例の如く、係合上方突片(17)及び係合下方突片(18)(20)はその細長い構造上、外力が加わった場合に係合受溝(4)や係合凹溝(5)(9)の底部側に応力が生じてひびが入るなどし、係合上方突片(17)や係合下方突片(18)(20)が折れて曲がったり破損したりするおそれがある。しかし本実施例の如く上記実施例1の係合上方突片(17)及び係合下方突片(18)(20)よりも形成長さが短尺となるよう形成することにより、上記実施例1の係合上方突片(17)及び係合下方突片(18)(20)よりも、この係合上方突片(36)及び係合下方突片(42)(43)の方が外力により折れ曲がったり破損したりする事態を防ぐことができる。

【0050】

また上記の如く構成することにより、第1側方パネル(40)と第2側方パネル(41)とを背面パネル(35)に組み付ける際に、第1側方パネル(40)や第2側方パネル(41)の底辺(46)(47)を背面パネル(35)の上辺(38)より上の位置まで持ち上げることなく、背面パネル(35)の上辺(38)位置よりも低い位置から第1側方パネル(40)や第2側方パネル(41)の係合凹溝(50)(51)を背面パネル(35)の係合受溝(48)に係合させることができる。そのため、組み付け作業の労力を軽減することができる。

【0051】

また、第1側方パネル(40)と第2側方パネル(41)を背面パネル(35)に組み付ける際に、背面パネル(35)の係合上方突片(36)の先端(37)よりも上方に露出した背面パネル(35)の両側縁(55)に沿って第1側方パネル(40)又は第2側方パネル(41)の係合下方突片(42)(43)の表面をスライドさせながら係合受溝(48)に係合凹溝(50)(51)に係合させることができる。そのため、第1側方パネル(40)及び第2側方パネル(41)の背面パネル(35)への組み付け作業を円滑に行うことができる。

【実施例4】

【0052】

また、上記実施例1では係合上方突片(17)及び係合下方突片(18)(20)の外側(61)(62)(63)を直線状に形成しているが、本実施例では係合上方突片(64)及び係合下方突片(65)(66)が外側(67)(68)(70)に張り出した形状としている。本実施例について説明すると、本実施例の係合上方突片(64)及び係合下方突片(65)(66)の外側には図8に示す如く、その外側(67)(68)(70)の係合受溝(77)及び係合凹溝(78)(80)の底部(82)(83)(84)水平方向に、くの字型に張り出した膨出部(71)(72)(73)を各々設けている。

【0053】

このように膨出部を設けることによって、応力が生じて破損しやすい係合上方突片(64)や係合下方突片(65)(66)の係合受溝(77)や係合凹溝(78)(80)の底部(82)(83)(84)水平方向の形成幅が幅広となるため、この部分での破損を防止することができる。また、背面パネル(74)に第1側方パネル(75)及び第2側方パネル(76)を組み付ける際に、第1側方パネル(75)と第2側方パネル(76)の係合下方突片(65)(66)を膨出部(72)(73)から背面パネル(74)の係合受溝(77)に容易に差し入れることができるため、この係合受溝(77)と係合下方突片(65)(66)の係合凹溝(78)(80)との係合をスムーズに行うことができる。また、膨出部(71)(72)(73)は上記の如く係合受溝(77)や係合凹溝(78)(80)の底部(82)(83)(84)水平方向に必要最小限のかたちで設けたものであるから、食器や調理器具などが所狭しと置かれているような調理台やコンロ台上の狭い空間スペース上でのレイアウト性が高くなるため、狭い空間において効率よく配置することが可能となる。

10

【0054】

また、係合上方突片(64)及び係合下方突片(65)(66)の各膨出部(71)(72)(73)には、図8に示す如く円形の補強プレート(81)を設けている。この補強プレート(81)により、係合上方突片(64)の係合受溝(77)外側の底部(82)水平方向部分、及び係合下方突片(65)(66)の係合凹溝(78)(80)外側の底部(83)(84)水平方向部分を更に破損しにくいものとすることができる。

【実施例5】

【0055】

また上記実施例4では、係合上方突片(64)及び係合下方突片(65)(66)にくの字型の膨出部(71)(72)(73)を形成しているが、本実施例では図9に示す如く係合上方突片(95)及び係合下方突片(96)(97)の膨出部(91)(92)(93)を弧状に形成している。このように膨出部(91)(92)(93)を弧状とすることにより、円形の補強プレート(94)を膨出部(91)(92)(93)からはみ出さずに固定配置することができる。そのため、より表面積の広い補強プレート(94)を配置することが可能となり補強効果を高めることができる。

20

【実施例6】

【0056】

また上記実施例1～5では、第1側方パネル(2)(40)(75)及び第2側方パネル(3)(41)(76)において、係合下方突片(18)(20)(42)(43)(65)(66)(96)(97)の形成位置とは反対側に位置する上辺角部(101)(102)(105)(106)(107)(108)(110)(111)を直角に形成しているが、本実施例では図10、11に示す如く、この上辺角部(112)(113)を切欠いて形成している。本実施例について説明すると、第1側方パネル(114)は図10に示す如く、係合下方突片(115)の形成位置とは反対側に位置する上辺角部(112)を切欠いて斜辺(116)を設けている。即ち、第1側方パネル(114)の形成高さをa、形成幅をbとすると、形成長さのa/2以上、形成幅のb/2以上の位置を直線状に切欠いて斜辺(116)を形成している。

30

【0057】

また図11に示す如く、第2側方パネル(120)についても上記第1側方パネル(114)と同様に、係合下方突片(117)の形成位置とは反対側に位置する上辺角部(113)を切欠いて斜辺(118)を設けている。即ち、第2側方パネル(120)の形成高さをa、形成幅をcとすると、形成長さのa/2以下、形成幅のc/2以下の位置を直線状に切欠いて斜辺(118)を形成している。

40

【0058】

上記の如く、第1側方パネル(114)と第2側方パネル(120)の上辺角部(112)(113)を切り欠いて斜辺(116)(118)を設けることにより、調理器具など(図示せず。)の衝突が生じやすい上辺角部(112)(113)を切り欠いた形状とすることにより、このような衝突が回避されて調理台(121)とコンロ台(122)との連携作業を円滑に行うことが可能となるとともに、コンロ台(122)側と調理台(121)側との間で上辺角部で仕切られない連続した空間を生じさせることができるため、調理台(121)で作業をしながらコンロ台(122)の状態を容易に確認することができる。尚、本実施例では上記の如く、斜辺(116)(118)を直線状に切欠いて形成しているが、他の異なる実施例ではこれに限らず、斜辺を曲線状に切欠いて形成すること

50

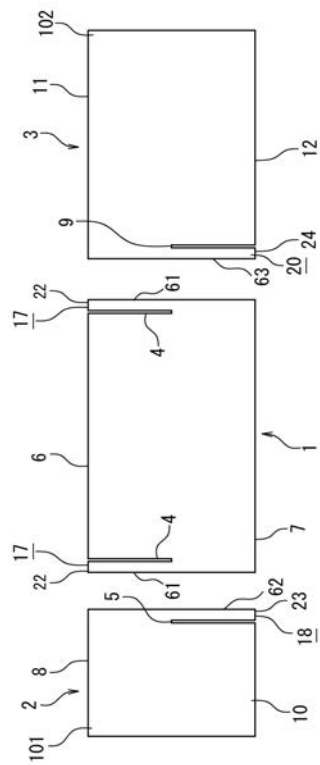
も可能である。

【符号の説明】

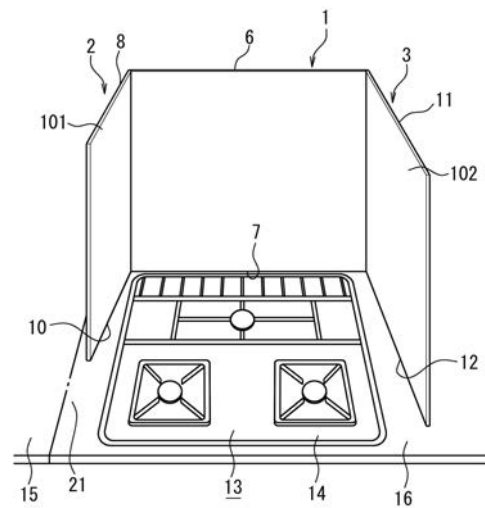
【0059】

1, 27, 35, 74	背面パネル	
2, 40, 75, 114	第1側方パネル	
3, 41, 76, 120	第2側方パネル	
4, 48, 77	係合受溝	
5, 50, 78	係合凹溝(第1側方パネル)	
6, 38	上辺(背面パネル)	
9, 51, 80	係合凹溝(第2側方パネル)	10
10, 46	底辺(第1側方パネル)	
12, 47	底辺(第2側方パネル)	
17, 36, 64, 95	係合上方突片	
18, 42, 65, 96, 115	係合下方突片(第1側方パネル)	
20, 43, 66, 97, 117	係合下方突片(第2側方パネル)	
32	一方背面パネル	
33	他方背面パネル	
37	先端	
44	下端(第1側方パネル)	
45	下端(第2側方パネル)	20
52, 82	底部(係合受溝)	
53, 83	底部(第1側方パネル・係合凹溝)	
54, 84	底部(第2側方パネル・係合凹溝)	
61, 67	外側(係合上方突片)	
62, 68	外側(第1側方パネル・係合下方突片)	
63, 70	外側(第2側方パネル・係合下方突片)	
71, 91	膨出部(係合上方突片)	
72, 92	膨出部(第1側方パネル・係合下方突片)	
73, 93	膨出部(第2側方パネル・係合下方突片)	
81, 94	補強プレート	30
101, 105, 107, 110,	上辺角部(第1側方パネル)	
102, 106, 108, 111	上辺角部(第2側方パネル)	
116, 118	斜辺	

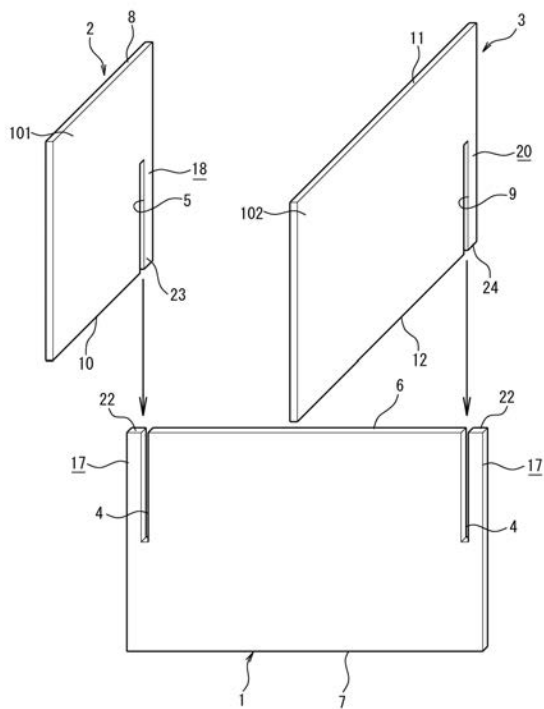
【図 1】



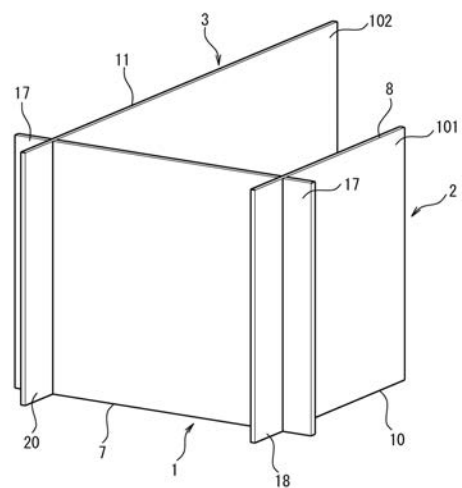
【図 2】



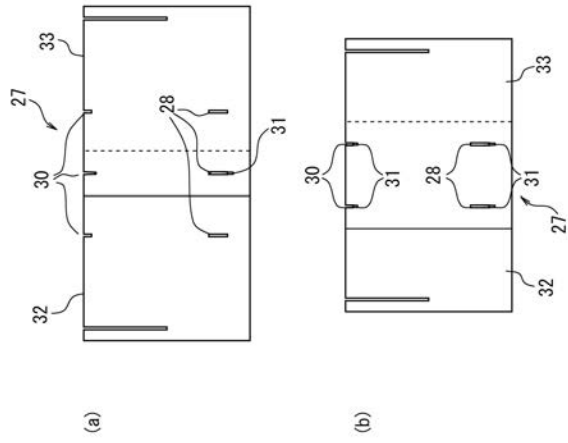
【図 3】



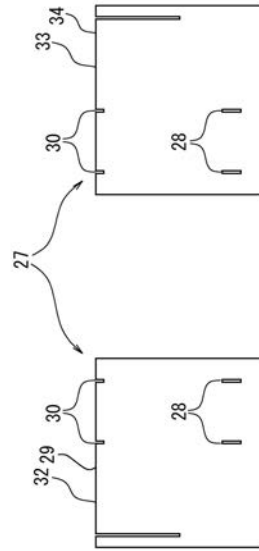
【図 4】



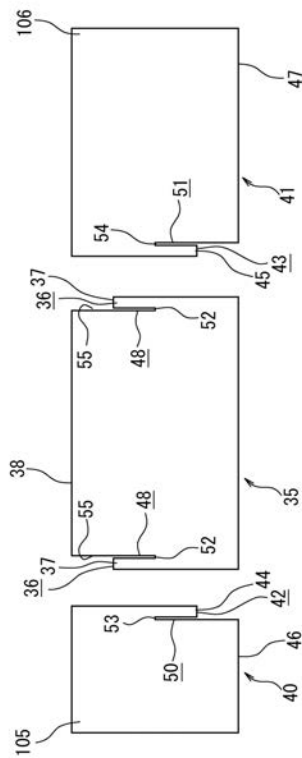
【図 5】



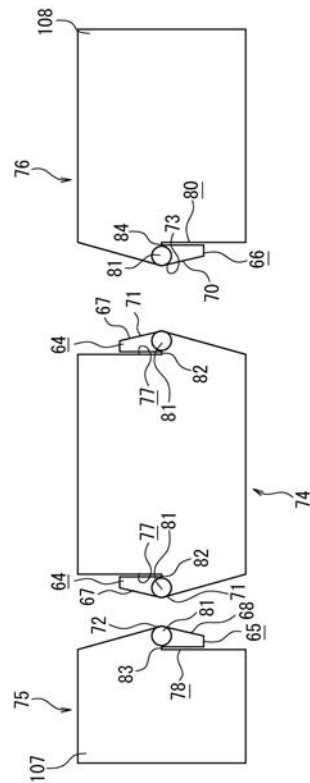
【図 6】



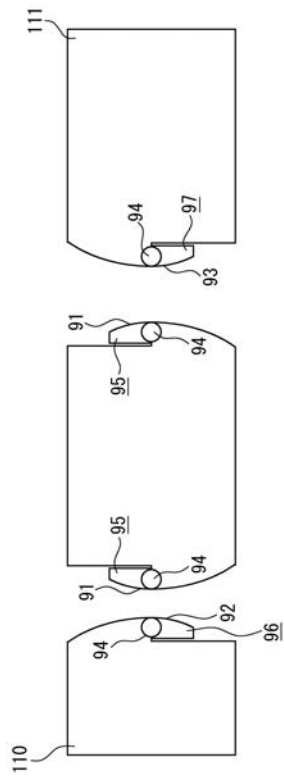
【図 7】



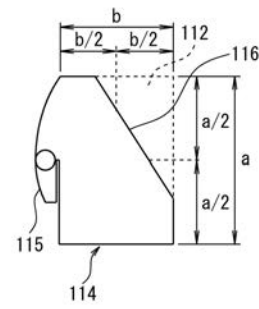
【図 8】



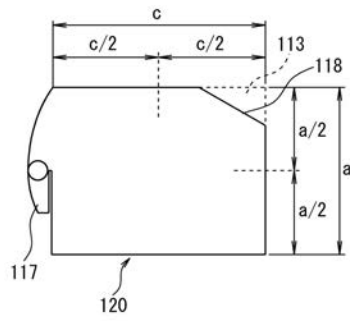
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

